

## 育てづらさを感じている親支援のための チェックリスト開発

田村 麻里子 茨城県立医療大学保健医療学部  
橋本 創一 東京学芸大学教育実践研究支援センター  
秋山 千枝子 あきやまこどもクリニック

**要旨：**育てづらさへの早期支援を行うためのチェックリストを作成した。チェックリスト作成は、1) 育てづらさを具体的に言語化し、相談をしてもよいことをとして提示し、育児づらさを抱えた親が早期に支援を受けられるようにする、2) 早期から親が育てづらさを感じている広汎性発達障害等を含めた軽度障害児の早期発見・支援をする、ことを目的に行った。作成方法は、先行文献から軽度発達障害児の乳幼児期の状態・特徴を記述したものを抽出し、コミュニケーション、行動と遊び、睡眠、運動、身辺処理の5つに分類し、年齢別に6-12ヶ月、1-2歳、2-3歳、3-4歳に分けてチェックリストを作成した。さらにチェックリストの予備調査を保健師、心理職、小児科医を対象に2件法で行った。結果、合計97項目であった。チェックリストは、暫定的な使用であり、試行の段階であるが、具体的に項目を提示することで、ニーズに対応した支援を行うことができ、軽度発達障害児の診断が確定する前から支援が行われ、早期対応につながる可能性があると予測される。今後、相談内容の実態とその後の経過（障害の発見率など）との関連についてなどのデータを積み重ねていながら、項目の改定を検討していく。

**Key Words：** 育てづらさ、広汎性発達障害児、チェックリスト

### ● I. はじめに

かつての乳幼児健診は、子どもの心身面に關するものが主な目的であり、子どもを通して親への支援が行われていたが、乳幼児健診は子どもと同等に親への支援も目的として加わり、育児支援を行える健診の体制づくりが求められている。「健やか親子21」でも課題とされている虐待の予防としての育児不安軽減のための支援が注目されている。育児不安とは、牧野(1982)は「子どもの現状や将来あるいは育児のやり方や結果に対する漠然とした恐れを含む情緒の状態」としている。

育児不安・心配に関する要因に関してこれまでの研究は明らかになっているのは、育児の心配や不安をもたらされる要因は、少子化、核家族化の中で育児の主な責任が母親に課せられていることなど社会的背景もある(庄司, 2000)。

親側の要因としては、子どもの要求を理解できない、出産以前の子どもの接触や育児の経験が乏しい(服部・原田, 1990)ことがある。また川井(1996)が育児不安の明確化を主目的とし、援助につなげるために行った調査において、育児不安の本態は、「子どもをうまく育てていると思えない」、「子どものことで、どうしたらよいのかわからなくなることがある」、「子どものことが煩わしくて、イライラする」、「叱りすぎるなど、子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」といった育児困難感であることを明らかにした。また、育児についての心配は、育児困難感の高いものに多く、とくに2歳前後に顕著にみられ、かつこの時期に支援を必要としているとしている。

さらに、育児困難感の子ども側の要因として「泣き虫」、「人見知り」、「しつこい」といった子どもの心身にわたる状態と育児困難感と関連があること、「指しゃぶり」、「タオルを離さ

ない」などの癖についての心配、「かんが強い」、「こだわりが強い」など情緒的な問題についての心配、発達面では言葉の心配も育児困難感の高いものに有意であることを明らかにしている。

また、現在の健診体制では早期発見が難しいとされ、就園後に診断されることの多い高機能広汎性発達障害などの軽度発達障害児も、幼児期の早いうちから育てにくさ感がある（石川, 1999；根来他, 2004）ということも育児支援の視点から注目すべき点である。

平岩（2004）は、これからの乳幼児健診においては、指示が通りにくい、落ち着きがない、コミュニケーションがとりにくい、親しみが感じられない、といった親の感じている「扱いにくさ」を「扱いにくさ」に適切に対応することが育児不安の軽減や虐待の早期発見・予防、ひいては軽度発達障害への早期からの対応につながる可能性があるとして述べている。

これらのことから、育児不安、育児困難感、扱いにくさなど表現はさまざまであるが、子育て中の親が感じる子どもへの育てづらさに対して早期に支援をしていく体制をつくっていくことが必要であるといえる。そこで今回、育てづらさへの早期支援を行うためのチェックリストを作成したので報告する。

## II. チェックリスト作成目的

1. 育てづらさを具体的に言語化し、相談をしてもよいことをとして提示し、育児づらさを抱えた親が早期に支援を受けられるようにする。
2. 早期から親が育てづらさを感じている高機能広汎性発達障害等の軽度障害児の早期発見・支援をする。

## III. チェックリスト作成方法

### 1. チェックリスト項目の抽出

チェックリスト項目を検討するにあたり、以下の文献を参考に作成した。

石川(1999)は、診察時に広汎性発達障害を疑わせた療育者側からの訴え、どんなときに「他の子どもたちと違う」と感じたのかをまとめたものを年齢別に、乳児期、1歳台、2歳台、3歳台、幼児期（集団生活）わけ、各年齢別に特徴

とその具体的内容を挙げている。

西村ら(2004)は、先行研究から新生児から1歳まで、1歳以降にわけて高機能広汎性発達障害の早期兆候について後方視的に検討している。

根来ら（2004）は、軽度発達障害児の主観的育てにくさ感について、4～6才までの専門機関などで軽度発達障害と診断されている、あるいは強く疑われている母親への質問紙調査による育てにくさ感に関する項目の調査を行っている。

中田ら(1999a・b)は、幼児期（2-3歳）の情緒と行動問題を評価するために Achenbach の Child Behavior/2-3(CBCL/2-3)の日本語版を作成・標準化することを試みている。下位尺度として反抗尺度、ひきこもり尺度、睡眠・食事尺度、不安神経質尺度など8つの問題尺度、上位尺度として内向尺度と外向尺度から構成されている。

小関ら(2002)は、Early Language Milestones Scale と遠城寺式乳幼児分析的発達検査を参考しにして26項目からなる発達障害児を早期発見する目的でチェックリストを作成している。

これらの先行文献より、全126項目を選定し、項目をコミュニケーション、行動と遊び、睡眠、運動、身辺処理の5つに分類し、年齢を6-12ヶ月、1-2歳、2-3歳、3-4歳に分けて作成した。

### 2. 予備調査

選定したチェックリスト項目の適正を検討するため、予備調査を行った。

対象：高機能広汎性発達障害など軽度発達障害児とその親の相談経験のある保健師3名、心理3名、小児科医2名

方法：チェックリスト項目を対象者に2件法で項目の表現のわかりづらさ、不適切な表現なものを質問。また、自由記述で追加する必要のある項目を記述してもらった。

結果：調査を行い、項目が適正である、追加の必要があるとされた項目、合計97項目であった。その内訳は、コミュニケーションでは、6-12ヶ月4項目、1-2歳10項目、2-3歳4項目、3-4歳3項目の計21項目。行動と遊びでは、6-12ヶ月7項目、1-2歳12項目、2-3歳7項目、3-4歳14項目の計40項目。睡眠では、6-12ヶ月4項目、1-2歳3項目、2-3歳3項目、3-4歳3項目の計13項目。運動では、6-12ヶ月4項目、1-2歳2項目、2-3歳

表1 チェックリスト項目内容

	6~12ヶ月	1~2歳	2~3歳	3~4歳
コミュニケーション	<input type="checkbox"/> おとなしすぎる <input type="checkbox"/> ずっと泣いている <input type="checkbox"/> 何をしても泣き止まず、何で泣くかわからない <input type="checkbox"/> 視線が合いにくい	<input type="checkbox"/> 人見知りがない/ひどい <input type="checkbox"/> 母親にべったりで父親につかない <input type="checkbox"/> 親の動作や言葉をまねることが苦手 <input type="checkbox"/> コマーシャルの言葉ばかり言う <input type="checkbox"/> 指差しをしない <input type="checkbox"/> 見ている方、指差された方を見ない <input type="checkbox"/> 言葉の理解がわるいようである <input type="checkbox"/> 名前を呼んでも知らん顔する <input type="checkbox"/> 耳が聞こえないのか心配 <input type="checkbox"/> 言葉の発達が遅い	<input type="checkbox"/> 思い通りにいかないとすぐ怒る <input type="checkbox"/> 言い聞かせてもわからないことが多い <input type="checkbox"/> 人の言うことを聞かない <input type="checkbox"/> 手遊び歌に関心がない	<input type="checkbox"/> 独り言ばかり言う <input type="checkbox"/> おうむ返しの言葉が多い <input type="checkbox"/> 自分でつくった言葉(造語)を話して喜んでいる
行動と遊び	<input type="checkbox"/> あまり泣かない/笑わない <input type="checkbox"/> 要求が極端に少ない <input type="checkbox"/> 抱っこをせがまない <input type="checkbox"/> 後追いしない <input type="checkbox"/> 抱いたときしっかりしがみつかない <input type="checkbox"/> 表情が極端に乏しい <input type="checkbox"/> 一人遊びばかりする	<input type="checkbox"/> 人より物に興味を示す <input type="checkbox"/> 人への注意が持続しない <input type="checkbox"/> 外で迷子になってしまう <input type="checkbox"/> 一人遊びが好き、遊びに介入されるのを嫌がる <input type="checkbox"/> ビデオなど機械の操作が上手 <input type="checkbox"/> 好きなビデオを一日中ずっと見ている <input type="checkbox"/> 不安が強い <input type="checkbox"/> 物を1列に並べて/積んで遊ぶ <input type="checkbox"/> 偏った興味・決め事がある <input type="checkbox"/> 物を何でもまわす <input type="checkbox"/> キャラクター・乗り物への執着(極端なこだわり) <input type="checkbox"/> 極端に落ち着かない	<input type="checkbox"/> 特定の物を異常に怖がる <input type="checkbox"/> 慣れない建物には怖がって入れない <input type="checkbox"/> 初めての物、場所をこわがる <input type="checkbox"/> 妙に神経質である <input type="checkbox"/> ごっこ遊びをしない <input type="checkbox"/> 独特なごっこ遊び(自分一人の世界) <input type="checkbox"/> かんしゃく、パニックをおこすことが多い	<input type="checkbox"/> 友達に興味がない <input type="checkbox"/> 決まった友達とばかりしつこく遊びたがる <input type="checkbox"/> 子どもをこわがる <input type="checkbox"/> 一人で遊んでいることが多い <input type="checkbox"/> 集団に参加することをいやがる <input type="checkbox"/> 人混みを極端に嫌う <input type="checkbox"/> 奇妙な癖や動作をする <input type="checkbox"/> 失敗を極端に恐れて行動しない <input type="checkbox"/> 気分の変化が大きく、気が散りやすい <input type="checkbox"/> 順番が待てない <input type="checkbox"/> いつでも一番でないとだめで怒る(勝負にこだわる) <input type="checkbox"/> 数字やアルファベットが好きで覚える <input type="checkbox"/> 多動(座っていられず動いている) <input type="checkbox"/> 攻撃的な行動が多い
睡眠	<input type="checkbox"/> いつも寝てばかりいる <input type="checkbox"/> 親は関係なく、一人ですぐ寝てしまう <input type="checkbox"/> ひどい夜泣きがある <input type="checkbox"/> ちっとも寝ない(睡眠時間が短い、細切れにしか寝ない)	<input type="checkbox"/> 夜中に起きることが多い <input type="checkbox"/> 寝つきが極端に悪い <input type="checkbox"/> 夜泣きがひどい	<input type="checkbox"/> 夜中に起きることが多い <input type="checkbox"/> 寝つきが極端に悪い <input type="checkbox"/> 夜泣きがひどい	<input type="checkbox"/> 眠りが浅くすぐに起きる <input type="checkbox"/> 寝つきが悪い <input type="checkbox"/> 夜泣きがひどい
運動	<input type="checkbox"/> 寝返りの仕方が異常 <input type="checkbox"/> 座位がいつまでも不安定である <input type="checkbox"/> おもちゃをも持たない <input type="checkbox"/> ハイハイの仕方がおかしい	<input type="checkbox"/> つま先立ち歩きを長くする <input type="checkbox"/> 歩き方がいつまでもぎこちない	<input type="checkbox"/> ジャンプができない <input type="checkbox"/> 階段を上がれない <input type="checkbox"/> 利き手が定まらない	<input type="checkbox"/> 丸が描けない <input type="checkbox"/> 発音が極端に不明瞭 <input type="checkbox"/> 吃音がみられる <input type="checkbox"/> 手先が不器用
身辺処理			<input type="checkbox"/> トイレに行くのを拒否する <input type="checkbox"/> ひどい偏食が出てきた <input type="checkbox"/> しつけができない(言い聞かせてもだめ) <input type="checkbox"/> 食事に極端に時間がかかる	<input type="checkbox"/> 同じ服しか着ようとしらない <input type="checkbox"/> 靴下を絶対に脱いでしまう <input type="checkbox"/> ウンチをパンツの中でしかしない <input type="checkbox"/> 偏食がなおらない <input type="checkbox"/> 食べ物を見た目で判断して食べない <input type="checkbox"/> 服や手が汚れるのを極端にいやがる

3項目、3-4歳4項目。身辺処理では6-12ヶ月0項目、1-2歳0項目、2-3歳4項目、3-4歳6項目の計10項目である。(表1参照)

また、チェックリストが子どもの問題探しではなく、親へ支援をする目的であることをまず記載した。以下、記載内容である。

#### 健診をすませたお子さんをもつお母さんへ

乳幼児期に、以下にあげた「気になる行動」が複数みられた場合、または、「子育てしにくいなあ」と感じたり、「他の子どもと違っているような気がする」などがありましたら、当クリニックにご相談下さい。

以下の項目がみられたからといって、必ずしも発達に異常があるとか、病気ということではありません。お子さん一人ひとりにあった適切な子育てをするなかで、解決できる問題だったりします。そのお手伝いのためのアドバイスを致します。

### ● \_\_\_\_\_ IV. 活用の方法

1. 三鷹市小児科医会のうち7医療機関で行われる乳幼児健診(個別健診)で冊子を配布し、その後、心配の有無を診察や次回健診等で確認していく。
2. 配布後にチェックリスト項目における相談のあった場合は、その項目と件数を各医療機関で記録しておく。
3. 保健センターとともに連携し、保健センターで行われる1歳半歯科健診(集団健診)や3歳児健診(集団健診)の際に、チェックリスト項目から心配の有無を確認し、相談があった場合は記録を行う。
4. 全記録より、データを蓄積し、分析を行っていく。

### ● \_\_\_\_\_ V. 考察

石川(1999)は、広汎性発達障害を発見するための大前提として、広汎性発達障害の症状に精通していることが、まず、必要になることを述

べている。養育者は、広汎性発達障害の症状を知らないことが多い。そのため、育児の困りごと、育てにくさに気づくため、具体的に項目を提示することで、保護者が感じている「育てづらさ」や「気になる行動」について共有し、相談しやすくなると考える。共有するための言語化、具体化したツールとして使用できるようにすることはとても意義があるといえる。そのため、何項目以上該当すると〜というようなことではなく、該当した項目に対して相談・支援していくことが重要となる。そして、保護者の抱く不安や心配に寄り添い、適切に対応していくことは、ニーズに対応した支援を行うことができる。さらに育児不安の軽減や虐待の予防、そして軽度発達障害児の診断が確定する前からの早期支援につながる可能性があると予測される。

福祉分野における育児支援活動のほとんどは、自発的な参加を前提としている。水内ら(2000)が述べているように育児支援事業に関わってこない潜在的な育てづらさを感じる親子こそ支援の必要があるという実態がある。子育て支援センター等で育児に関する相談・支援が行われている。年齢との関連もあるが、たとえば場に慣れにくい、1人遊びばかりになってしまうなど育てづらさがある場合、このような事業への自発的で継続的な参加は難しく、医療機関等での健診後も継続的に相談できるような体制が必要であると考えられる。また、親が自発的な事業への参加や相談行動をとりにくいケースに対し、健診は相談を受ける場があることを周知しておくよい機会となるといえる。

このチェックリストは暫定的な使用であり、試行の段階である。現在、支援方法のマニュアルを作成している。今後、相談内容の実態とその後の経過(障害の発見率など)との関連についてなどのデータを積み重ねていきながら、さらに育児全般を視野に入れた項目の改定を検討していく。また、広汎性発達障害等の軽度発達障害児の早期発見に関しては、良く寝る、手がかからない、など親が育てづらさを感じないタイプもあることから、今後も項目の検討を行っていく予定である。

## 文 献

- 1)服部祥子、原田正文(1990)：乳幼児の心身発達と環境－大阪レポートと精神医学的視点－，名古屋大学出版会
- 2)平岩幹夫他(2004)；健診で着目する疾患・発達課題の知識，保健師ジャーナル，426-429, 2004
- 3)石川道子(1999)：高機能広汎性発達障害－アスペルガー症候群と高機能自閉症－，ブレーン社，112-119.
- 4)川井尚・恒次欽也・中村敬(2002)；平成12年度幼児健康度調査からみる心の健康－特に母親の心身の健康・育児不安とのかかわりについて－，小児科，43(6).
- 5)川井尚他（1996）；育児不安に関する臨床的研究Ⅱ－育児不安の本態としての育児困難感について－，日本総合愛育研究所紀要，32，29-47.
- 6)小関圭子，森岡由起子(2002)：1歳6ヶ月児健康診査における発達障害のスクリーニングに関する研究，小児の精神と神経，42(4)，301-319.
- 7)小枝達也・加賀牧子・杉山登志郎・橋本俊顕・原仁・宮本信也(2002)：ADHD, LD, HFPDD, 軽度 MR 児保健指導マニュアル－ちょっと気になる子どもたちへの贈りもの，診断と治療社.
- 8)水内豊和・林千津子・七木田敦(2000)：子育て支援センターを利用する母親の意識，幼年教育年報，22，61-69.
- 9)中田洋二郎・上林靖子・福井和美・藤井浩子・北道子・岡田愛香・森岡由起子(1999)：幼児の行動チェックリスト（CBCL/2-3）の日本語版作成に関する研究，小児の精神と神経，39(4)，305-316.
- 10)長田洋和・加藤星花・長沼洋一・瀬戸屋雄太郎・久保田友子・渡辺友香・立森久照・栗太広・太田昌孝(2000)：広汎性発達障害の診断補助尺度としての小児行動質問表（CBQ）の有用性に関する研究，精神医学，42(5)，527-534.
- 11)根来あゆみ，山下光，竹田契一（2004）：軽度発達障害児の主観的育てにくさ感，発達，97(25)，13-18，ミネルヴァ書房.
- 12)西村美緒・橋本俊顕・福本礼・宮崎雅仁・森健治・黒田泰弘（2004）：後方視的にみた高機能広汎性発達障害児の乳幼児期の行動異常－重症度と関連性はあるのか？，脳と発達，36(suppl)，S209.
- 13)庄司順一(2000)：子どものこころとからだ－育児不安－，保健の科学，42(11)，870-874
- 14)寺川志奈子・小枝達也(2005)：気になる行動とその対応，小児科，46(11)，1762-1765.
- 15)富澤江実子・神山潤(2005)：睡眠の問題および睡眠障害の見方，小児科，46(11)，1767-1773.